



アンリツ

サステナビリティレポート

Anritsu Sustainability Report

2024





目次

Introduction

03 アンリツグループについて

04 At a Glance

サステナビリティ経営

05 CEOメッセージ

07 サステナビリティの考え方

08 サステナビリティ推進体制

09 マテリアリティ

10 サステナビリティ経営が目指す未来

11 社会課題解決と事業成長

15 サステナビリティ目標とその進捗

16 ステークホルダーとの対話・共創

17 ESGインデックスへの組み入れ状況、外部評価

目次・編集方針

Introduction

サステナビリティ経営

編集方針

アンリツグループは、サステナビリティ情報の報告を行うため、サステナビリティレポートを年1回PDF形式で発行しています。サステナビリティレポート2024では、主に2023年度の活動を掲載しています。アンリツグループは本レポート以外にも、統合レポートやウェブサイトなどの媒体を通して、ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションの向上に努めています。

レポート

WEB 統合レポート

WEB コーポレート・ガバナンスに関する報告書

WEB 有価証券報告書

ウェブサイト

WEB アンリツ株式会社・アンリツグループ

WEB 投資家のみなさまへ

WEB サステナビリティ

対象範囲

アンリツ(株)および国内外のグループ会社、関連会社を対象としています。報告内容については、項目によりアンリツ(株)のみの場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。以下のルールで区別しています。

- 「アンリツグループ」：記事内容がアンリツ(株)およびグループ会社全てを含む場合
- 「アンリツ」：記事内容がアンリツ(株)単体の場合
- 「国内グループ」：記事内容がアンリツ(株)および日本国内に拠点を置くグループ会社の場合
- 「海外グループ」：記事内容が海外に拠点を置くグループ会社の場合

対象期間

2023年4月1日～2024年3月31日

※ 一部、対象期間前後の活動内容を含みます

参考としたガイドライン

- GRI サステナビリティ・レポートینگ・スタンダード
本レポートはGRIスタンダードに準拠して作成しています。
- 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」
- 国連グローバル・コンパクト10原則
- ISO 26000：2010
- IFRS財団「SASBスタンダード」
- TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures：気候関連財務情報開示タスクフォース)

WEB GRI サステナビリティ・レポートینگ・スタンダード内容検索

WEB SASB対照表



アンリツは2006年3月、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に署名し、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークに加盟しています。

発行日

2024年10月4日発行
(前年度発行日 2023年9月1日)

第三者保証

環境データの一部については、第三者保証を受けています。詳しくは独立第三者の保証報告書をご参照ください。

WEB 独立第三者の保証報告書

お問い合わせ

アンリツ株式会社
サステナビリティ推進室

WEB 会社情報お問い合わせ

アンリツグループについて

1895年創業の石杉社(後の共立電気電線(株))と1900年創業の安中電機製作所が合併し、1931年に安立電気(株)が設立され、1985年に社名をアンリツ(株)に変更しました。1895年の創業以来、アンリツグループは情報通信機器のパイオニアとしてコミュニケーションの進化・発展に携わり、通信用計測器や食品の品質保証機器へと事業の幅を広げ、現在は通信計測・PQA(Products Quality Assurance)・環境計測・センシング&デバイスの4つの主要な事業を展開。開発・製造・技術・サービス拠点は世界に広がっています。

会 社 名 アンリツ株式会社 (ANRITSU CORPORATION)

本 社 住 所 〒243-8555 神奈川県厚木市恩名5-1-1

創 業 1895年(明治28年)

資 本 金 19,219百万円(2024年3月31日現在)

売 上 高 109,952百万円(2024年3月期:連結)

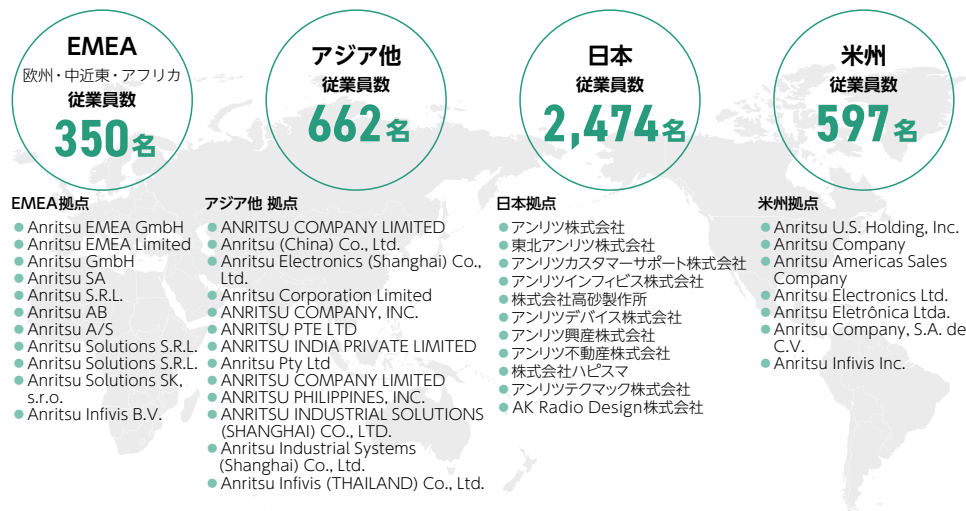
正規従業員数 4,083名(連結)(2024年3月31日現在)
1,732名(単体)(2024年3月31日現在)

事 業 内 容 電子計測器、食品・医薬品の品質保証システム、環境計測機器、デバイスなどの開発・製造・販売



アンリツ株式会社

開発・製造・技術・サービス拠点(2024年3月末時点)



地域別売上比率(2023年度連結)

EMEA 15%	アジア他 30%	日本 31%	米州 24%
----------	----------	--------	--------

通信計測事業

5G・IoT社会の実現を支える通信計測ソリューションを提供しています。



ラジオコミュニケーションテストステーション

主なお客さま

モバイル市場

- スマートフォン・タブレット端末メーカー
- EMS(電子機器生産受託企業)
- チップセットメーカー
- 自動車および車載関連メーカー
- 通信事業者

ネットワーク・インフラ市場

- 通信事業者
- 通信建設業者
- 通信装置メーカー
- IT系サービスプロバイダ

エレクトロニクス市場

- 電子デバイス・コンポーネントメーカー
- 通信装置・機器メーカー
- 自動車および車載機器関連メーカー
- 大学・研究機関
- 電子機器メーカー
- マテリアル・素材メーカー
- 官公庁

環境計測事業

社会インフラの維持、脱炭素社会の実現を支える環境計測ソリューションを提供しています。



ハイブリッド電源

主なお客さま

環境計測市場

- 官公庁・自治体
- 金融機関
- 通信事業者
- EVおよび電池関連メーカー

PQA事業

食品と医薬品の生産に関わるさまざまな課題と向き合い、「安全・安心」を約束する品質保証、製造工場の生産性向上に貢献するソリューションを提供しています。



X線検査機



錠剤検査用金属検出機

主なお客さま

食品

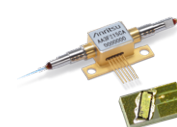
- 食品メーカー(食品原材料、冷凍食品や菓子などの加工食品、総菜)

医薬品市場

- 医薬品(錠剤、カプセル、液剤)、健康食品(サプリメント)

センシング&デバイス事業

最先端のデバイス技術、センシング技術を基盤に、お客さまの要望に応じた高品質なカスタム製品を供給しています。



SOA (半導体光増幅器)

主なお客さま

センシング&デバイス市場

- 電子機器メーカー
- 通信装置メーカー
- 眼科医療機器メーカー

事業別売上比率(2023年度連結売上高:1,100億円)

通信計測事業 64%	PQA事業 23%	7%	6%
------------	-----------	----	----

その他

目次・編集方針

Introduction

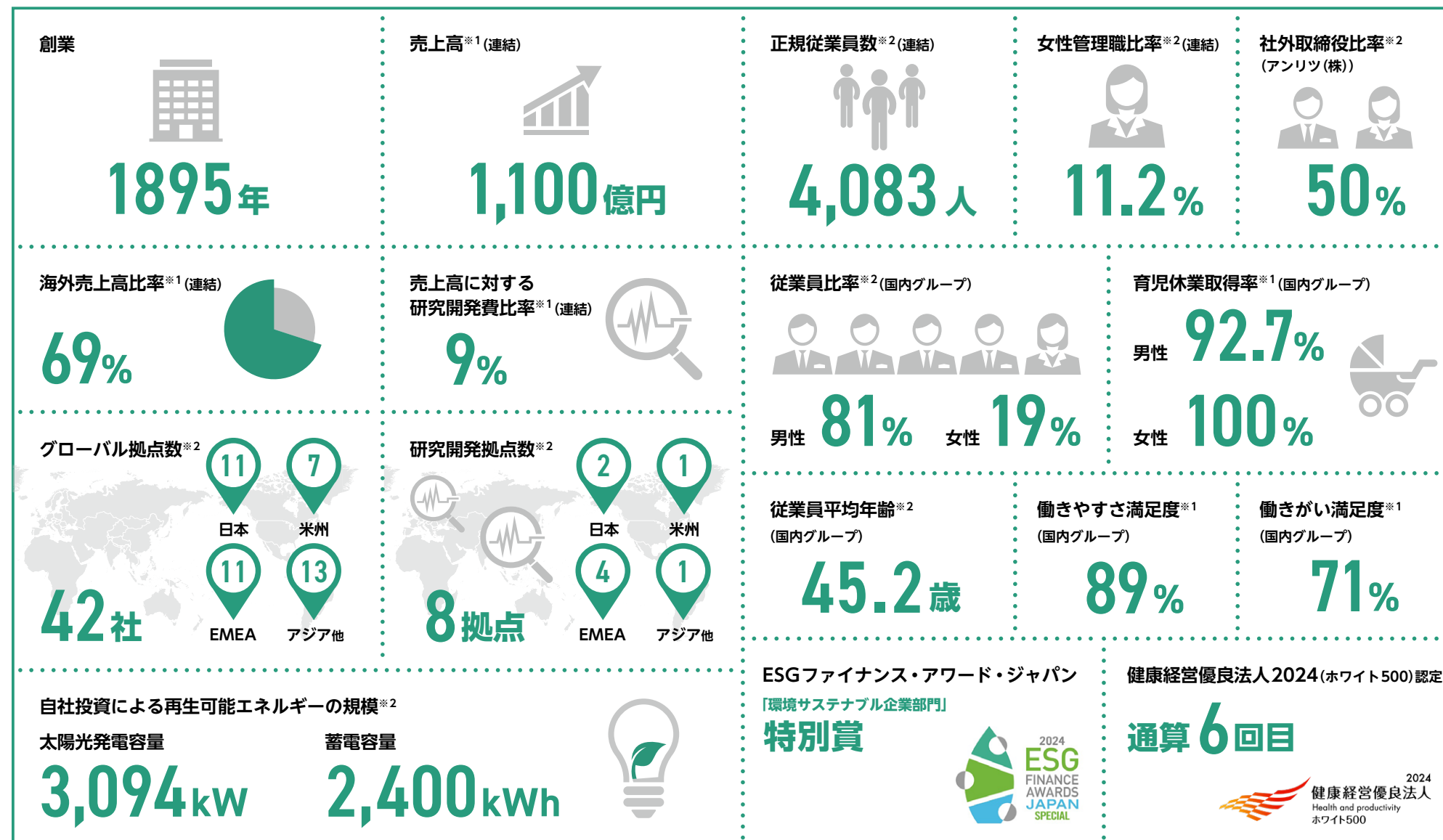
アンリツグループについて

At a Glance

サステナビリティ経営

At a Glance

※1 2024年3月期実績
※2 2024年3月31日現在



目次・編集方針

Introduction

アンリツグループについて

At a Glance

サステナビリティ経営

安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に向け 事業を通じて社会課題解決に貢献します

代表取締役社長 グループCEO

濱田 宏一

2023年度の振り返り

2023年度、アンリツグループは「脱プラスチック」と「人権尊重」の活動を強化しました。「脱プラスチック」に関しては、2030年度までにプラスチックごみゼロを目指すプラスチック基本方針を制定し、「製品および購入部材の包装」と「事業所内で使用するペットボトルおよび食堂で使用する食品包装」のプラスチックごみをゼロにする取り組みを進めています。「人権尊重」に関しては、人権リスクアセスメントを行い「職場における多様性の受容」「労働環境や働き方の変化への対応」「部品・機器調達先の労働環境調査の推進」の3点を今後優先的に取り組む人権課題として特定し、対策を講じています。

2023年度のサステナビリティ活動の中で、特に印象に残っているのは女性活躍推進です。国内グループの女

性管理職比率は2021年3月末時点で2.3%と非常に低く、身近にロールモデルがいないため、管理職を志願する女性従業員もほとんどいないという状況でした。女性管理職候補となる経験者採用の強化と、ライフステージやライフスタイルに合わせて働くことができる管理職コースの導入を行った結果、2024年4月の管理職昇進者32名のうち3割を超える10名の女性管理職が誕生し、比率は5.7%となりました。このことが良い刺激となり、キャリアアップを目指して管理職登用試験に挑戦する女性従業員が増加しています。これは非常に喜ばしい成果です。

アンリツグループはダイバーシティ&インクルージョンの実現に向けて、働き方改革と健康経営を推進しています。多様な価値観を持った人材が他者とのつながりの中で成長し、安心して自己実現を目指せる職場となるよう、今後もこれらの活動を強化していきます。



「Techno Plaza 2025」の開催に向けて

アンリツグループは自社の技術開発の現在と未来をつなぐマイルストーンとして、2025年7月に「Techno Plaza 2025」という単独での技術展示会を開催します。ここでは私たちが目指す「安全・安心で豊かなグローバル社会の発展」に向けて、次世代技術をリードする最新ソリューションと先端テクノロジーを展示します。創業から130年の間、アンリツグループの持続可能性を担保してきたのは、オリジナル&ハイレベルな技術力です。2000年以降、長らくモバイルの時代が続きましたが、2030年度に売上高2,000億円を実現するために、私たちは新たな市場の開拓に向けたイノベーションを加速しています。20年振りとなる今回の展示会は、アンリツグループがその技術力でサステナブルな未来社会の実現に貢献することを、ステークホルダーの

みなさまに広く示す機会となります。私が若手のエンジニアだった頃、「Techno Plaza」でわが社の高度な技術に驚き、まだ見ぬ未来に心躍らせたことを懐かしく思い出します。このときの私と同じように、訪れたみなさまが当社グループの最先端技術を通じて一歩先の未来に触れ、ワクワクできる「Techno Plaza 2025」にしたいと思います。

人的資本の最大化に向けた取り組み

アンリツグループでは新規事業領域を開拓するという経営戦略の下、人的資本の最大化を進めています。2024年4月に新領域でのビジネス拡大に向けた人材育成強化を目的として、「Anritsu Skills Training Center (A-SKILLS)」を立ち上げました。A-SKILLSは、EV・電池や汎用計測器に関する技術知識と販売スキル取得の教育を担い、3年間で新領域ビジネス人材を2倍に増強することを目指しています。A-SKILLSで行うトレーニングは国内だけでなく海外従業員にも同時展開し、グループ全体でアップスキリングに取り組めます。

私は、お客さまからよく「アンリツはすごい技術を持っていますね」というお言葉をいただきます。それを誇らしく感じるとともに、この類い稀な技術力や人材を宝の持ち腐れにせず、既存の領域を超えて生かすことでさらなる成長につなげたいと思っています。どれほど戦略が優れていても、現場で働く従業員が同じ志を持って実力を発揮しなければ、企業は成長できません。従業員には自分の能力に限界を設けることなく、共に新たな領域に挑んで欲しいと思います。

中期経営計画「GLP2026」

今後3年間はモバイル市場が5Gから6Gへの移行期となり、私たちにとって厳しい期間となります。しかし、いかなる状況においても利益を生み成長できる強い組織への変革を目指し、果敢に挑戦を続ける覚悟でGLP2026を策定しました。

サステナビリティ目標では環境分野で「資源循環（サーキュラーエコノミー）の実現」を新たに掲げ、資源循環に対応した製品のリリースに取り組めます。製品の設計から回収までの流れを整備し、アンリツ製品のサーキュラーエコノミーへの移行を実現させます。

気候変動による自然災害をはじめ、格差拡大や人手不足など、社会はかつてないほど多くの課題に直面しています。アンリツグループは安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に向けて、社会課題解決に貢献する事業を推し進め、中長期的な成長を確かなものにしていきます。この成長を実現させるためには、全ての従業員が日々の業務の中でサステナビリティを追求していくことが重要です。アンリツグループの技術力で豊かな未来社会を拓くため、従業員と共に「誠と和と意欲」を持って変革を推進します。

ステークホルダーのみなさまには、引き続き当社グループへの温かいご理解、ご支援を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

目次・編集方針

Introduction

サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

社会課題解決と事業成長

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

ESGインデックスへの組み入れ状況、外部評価

サステナビリティの考え方

2021年4月、アンリツグループは2030年に向けて新たな経営ビジョンと経営方針の制定、およびサステナビリティ方針の改定を行いました。
経営理念、ビジョン、方針を基に従業員一人ひとりが行動し、ステークホルダーのみなさまと共に、持続可能な未来づくりに挑んでいきます。



サステナビリティ方針

私たちは「誠と和と意欲」をもってグローバル社会の持続可能な未来づくりに貢献することを通じて、企業価値の向上を目指します。

- 1 長期ビジョンのもと事業活動を通じて、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献します。
- 2 気候変動などの環境問題へ積極的に取り組み、人と地球にやさしい未来づくりに貢献します。
- 3 すべての人の人権を尊重し、多様な人財とともに個々人が成長し、健康で働きがいのある職場づくりに努めます。
- 4 高い倫理観と強い責任感をもって公正で誠実な活動を行い、経営の透明性を維持して社会の信頼と期待に応える企業となります。
- 5 ステークホルダーとのコミュニケーションを重視し、協力関係を育み、社会課題の解決に果敢に挑んでいきます。

目次・編集方針

Introduction

サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

社会課題解決と事業成長

サステナビリティ目標とその進捗

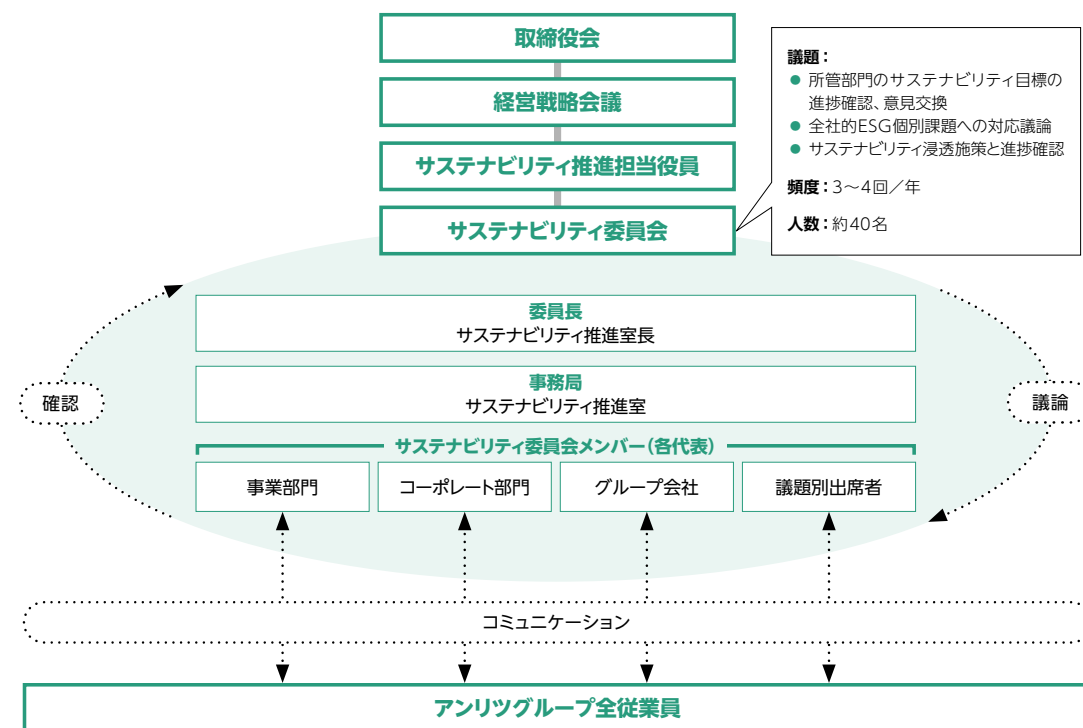
ステークホルダーとの対話・共創

ESGインデックスへの組み入れ状況、外部評価

サステナビリティ推進体制

アンリツグループは、経営理念、経営ビジョン、経営方針およびサステナビリティ方針に基づき、サステナビリティ委員会が中心となって活動を推進しています。

サステナビリティ推進体制



ガバナンス

アンリツグループでは、主要な部門の代表者からなる会議体を2023年4月にサステナビリティ推進会議からサステナビリティ委員会へ改め、重点項目を明確にして情報を共有し、改善に向けた議論を行い、その内容を各代表者から各部門に展開・浸透させています。サステナビリティ推進担当役員が報告する経営戦略会議および取締役会において進捗状況を議論しており、2023年度の実績としてサステナビリティ課題に関する議論は19件でした。

社内浸透のための取り組み

サステナビリティを推進していく上で、従業員一人ひとりの意識を向上させることが重要と考え、社内浸透に向けたさまざまな取り組みを行っています。

- ・アンリツグループ全従業員を対象としたeラーニングでの研修の実施
- ・SDGsケーススタディ発行と職場ディスカッションの実施
- ・人権課題を取り上げた記事の発信
- ・SDGsの従業員浸透度調査

目次・編集方針

Introduction

サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

社会課題解決と事業成長

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

ESGインデックスへの組み入れ状況、外部評価

マテリアリティ

アンリツグループはサステナビリティ経営において、「事業を通じて解決する社会課題」と「社会の要請に応える課題 (ESG)」への対応を両輪とし、事業分野別とESG分野別のマテリアリティ (重要課題) を設定しています。2021年4月の経営ビジョン、経営方針およびサステナビリティ方針の改定と、セグメント内の体制変更、さらに2022年1月から高砂製作所をグループに加えたことから、2022年度にマテリアリティを見直しました。

	事業						ESG				
視点	顧客・ビジネス環境					■ 環境		■ 社会			■ ガバナンス
	デジタル革新による 新しい事業機会への進出		安全で安心できる 食品や医療・医薬品の要求			脱炭素化の要求		気候変動による 災害	人権侵害 (サプライチェーン含む)	マイノリティへの 差別やハラスメント	経営の透明性を 無視して社会の 不信を招く
リスクと機会											
マテリアリティ	DX技術革新への 対応	強靱な ITインフラ整備	食品ロスの 低減	品質保証 ソリューションの 提供	健康的な 生活の確保	自然災害に 対する 防災・減災	脱炭素社会へ 貢献する 製品の提供	気候変動への 対応	人権の尊重	多様性の推進 (ダイバーシティ& インクルージョン)	経営の 透明性維持

事業分野別マテリアリティ

通信計測事業 DX技術革新への対応、強靱なITインフラ整備

デジタル革新で新たな社会の変革を目指すお客さまをサポートし、安全・安心な通信インフラの構築に通信テストソリューションで貢献する。

PQA事業 食品ロスの低減、品質保証ソリューションの提供

安全で安心できる食品や医薬品の安定供給を目指すお客さまをサポートし、高信頼・高感度の検査機と品質管理制御システムで生産ラインの品質検査工程自動化や食品ロス低減に貢献する。

環境計測事業 自然災害に対する防災・減災、脱炭素社会へ貢献する製品の提供

デジタル革新で新たな社会の変革を目指すお客さまをサポートし、情報通信ソリューションで新たなデジタル社会の変革、EV (電気自動車) や電池の評価ソリューションで脱炭素社会の実現に貢献する。

センシング&デバイス事業 強靱なITインフラ整備、健康的な生活の確保

デジタル革新で新たな社会の変革を目指すお客さまをサポートし、光デバイス事業、超高速電子デバイスで安全・安心で快適な社会の実現に貢献する。

ESG分野別マテリアリティ

■ 環境 (Environment) 気候変動への対応

気候変動への対応を最も重要なマテリアリティとしています。世界的な気候変動は、社会生活や産業界に多大な影響を及ぼし、洪水や干ばつなどの自然災害を引き起こすからです。アンリツグループの製造拠点である福島県郡山市の東北アンリツ第一工場が、過去2回にわたり河川氾濫による浸水被害に遭いました。また、サプライヤーも被災するなど、アンリツグループの調達・製造・物流のバリューチェーン全体に影響をもたらす課題であると認識しています。気候変動に大きな影響を与える温室効果ガス削減のため、私たちは再生可能エネルギーの自家発電・自家消費に優先的に取り組んでいきます。

■ 社会 (Social) 人権の尊重、多様性の推進 (ダイバーシティ&インクルージョン)

人権の尊重と多様性の推進をアンリツグループ共通の考え方として適用し、社内に浸透させます。変化が多く予想困難で複雑な現代において企業が成長を続けていくためには、多様な価値観を持つ人材の力が必要と認識しているからです。また個々人の能力向上が会社の成長に欠かせないことから人材の育成にも取り組んでいきます。

■ ガバナンス (Governance) 経営の透明性維持

経営の透明性を維持し、社会の信頼と期待に応える企業になることを目指しています。コーポレートガバナンス強化のために取締役会の実効性向上に取り組むほか、リスクマネジメント推進や社会的責務である情報セキュリティの強化を進めていきます。

目次・編集方針

Introduction

サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

社会課題解決と事業成長

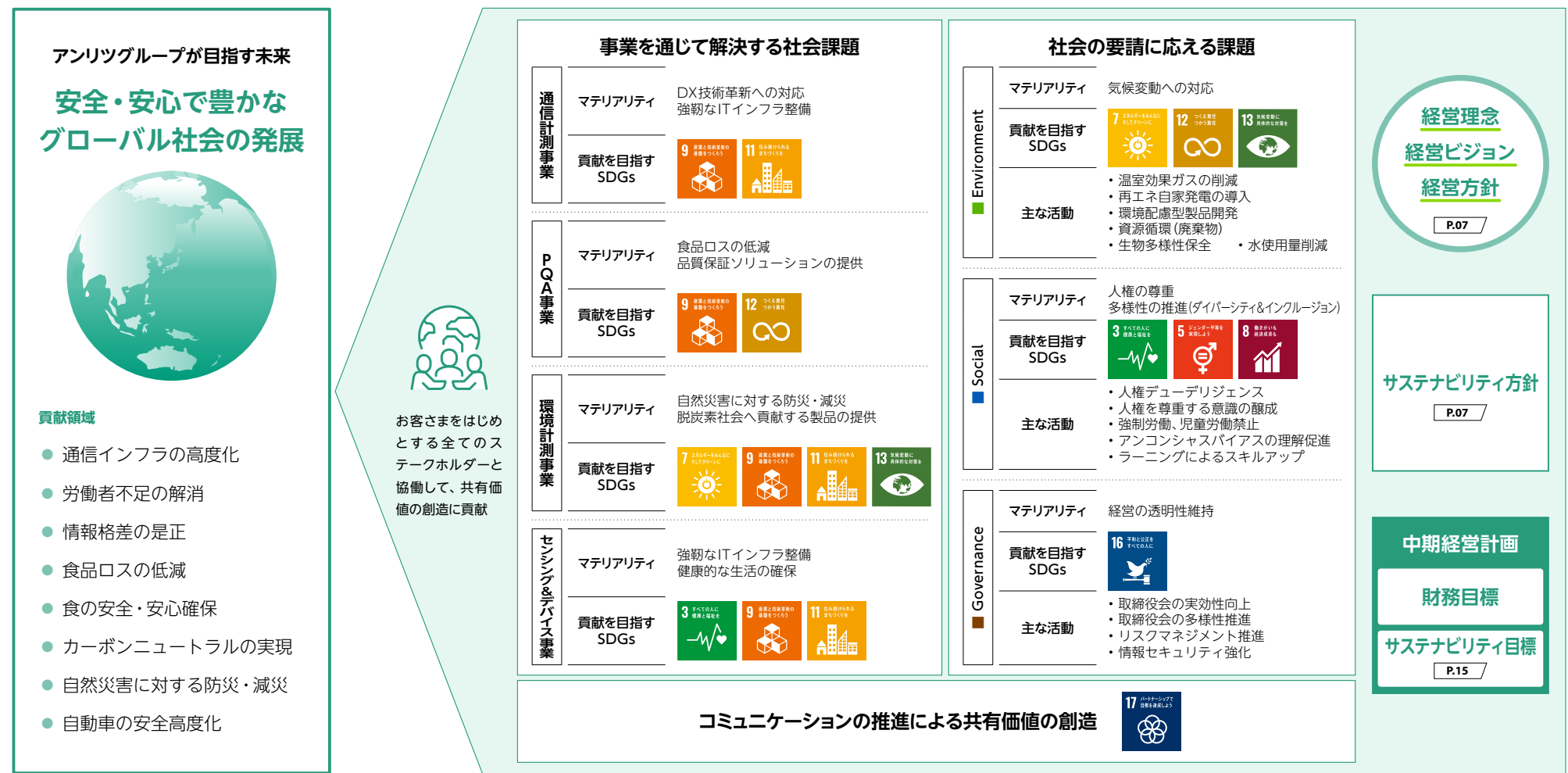
サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

ESGインデックスへの組み入れ状況、外部評価

サステナビリティ経営が目指す未来

アンリツグループは、サステナビリティ経営を通じてグローバル社会の持続可能な未来づくりに貢献することを目指しています。事業においては、アンリツグループのコンピテンシーである「はかる」技術を中心にイノベーションを生み出し、お客さまとともに社会課題の解決に貢献します。そして、社会の要請に応える課題に向き合い、ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを重視し、グローバル社会の発展に向けて取り組みます。



目次・編集方針
Introduction

サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

社会課題解決と事業成長

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

ESGインデックスへの組み入れ状況、外部評価

「切れない通信」を支えるテストソリューションにより 安全・安心でレジリエントな社会を目指す

取締役 常務執行役員
通信計測カンパニープレジデント
島 岳史



事業概要と目指す社会

通信計測事業では、携帯端末とチップセットの開発・製造用計測器や、車載無線モジュールの品質保証用計測器を提供しています。自動運転や遠隔医療など通信を活用した高度なサービスの実現に向けて、「切れない通信」インフラを構築するテストソリューションを提供し、安全・安心な未来社会の発展に貢献しています。

社会課題・顧客課題

かつてコミュニケーション手段の一つだった通信は、高齢化や人手不足、過疎化などの社会課題解決に欠かせない社会インフラへと変化しています。特に自動運転や遠隔医療の分野では、サービスの安全性と信頼性を担保する「切れない通信」が求められています。近年、ソリューションの早期社会実装を競う開発の現場でも、効率化は重要な指標となっています。そのため、お客さまから作業時間や電力消費量を削減できる計測器の需要が高まっています。

アンリツグループの強み・戦略

通信計測事業は、有線・無線・モニタリングの全領域を網羅する技術を保有しており、通信サービスの品質向上をワンストップで実現できることが強みです。お客さまの業務効率化に寄与するソリューションの提供や、環境負荷を低減するメディアレス化とプラスチック包装材の削減も推進しています。新たな技術開発には、未来の市場拡大を見据えた幅広い分野での技術動向調査も欠かせません。通信計測事業では先端マーケティング部門を新設し、社会のニーズをいち早くつかむことでグループシナジーの最大化に取り組んでいます。競争力強化を目的とした他社協業も積極的に行い、産業界のキープレイヤーとの協業によって最先端分野での活動領域を広げ、グローバルに事業を展開しています。

事例1 広範囲でレジリエントな無線通信インフラの導入に貢献

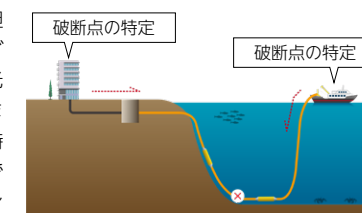
地上だけでなく、海、空、宇宙にある移動体をつなげる無線通信ネットワーク、NTN (Non-Terrestrial Network)。NTNは、基地局からの電波が届かない山間部や海、空での無線通信の利用や、災害などの非常時におけるネットワークの確保に向けて導入が進んでいます。アンリツはこれまで培ってきた無線通信の技術を生かし、デバイスの評価をNTNの疑似環境で行うための基地局シミュレータを提供し、高度で高信頼な無線通信インフラを支えています。



ラジオ コミュニケーション アナライザ MT8821C

事例2 国際通信インフラの効率的な構築やメンテナンスに貢献

データ通信量増加への対応やICT基盤整備のため、国際通信を担う海底ケーブルの敷設ラッシュが起きています。現在の海底ケーブルは光ファイバーが主流で、ケーブル敷設時の光信号の確認と、光ファイバー破損など問題発生時の障害箇所特定に計測器が使われます。アンリツの光パルス試験機は最大2万kmという長距離を短時間で測定でき、問題のある箇所を10m単位という高精度で検出できることから、大陸間をつなぐ海底ケーブルの効率的な敷設やメンテナンスに貢献しています。



ケーブル敷設・保守時における光信号の確認

VOICE



Skylo社との NTN試験の 合同検証に参加

通信計測カンパニー
モバイルソリューション事業部
服部 祐大

2024年1月に行われた、世界有数のNTNサービスプロバイダであるSkylo Technologies社(米国)とのNTNデバイス試験の合同検証に参加しました。NTNの端末試験では地上ネットワークよりも微弱な電波を扱うため、計測器の動作確認を入念に行って臨みました。本番では期待通りの結果を得ることができて嬉しかったです。計測器の開発は最先端技術に関わるため、日々ハイレベルな課題への解決策を求められますが、それが仕事のやりがいになっています。

食品と医薬品の品質保証ソリューションを通じて 誰もが健康で安全・安心を享受できる社会の実現に貢献

執行役員
インフィピスカンパニープレジデント
村田 勲一



事業概要と目指す社会

PQA事業は、食品と医薬品の生産に関わるさまざまな課題にお客さまと共に向き合い、安全・安心を約束する品質保証と製造工場の生産性向上に寄与するソリューションを提供しています。高品質・高信頼な食品と医薬品の安定供給によって、誰もが健康に暮らせる社会の実現に貢献しています。

社会課題・顧客課題

食品加工工程における食品ロスの削減は、食品企業にとって喫緊の課題です。食品は原料段階では石やガラスなどの異物、骨などの食べられない部分が混じっていることがあるため、食品加工の現場では、食用に適さない部分を取り除く作業を行っています。食品企業は「安全で安心して口にできる品質を保証する」だけでなく、「不良品の発生を最小限に抑え廃棄ロスを削減する」という課題にも取り組んでいます。医薬品には高精度な品質検査とデータ管理が欠かせません。医薬品には微小異物、異種混入、成分の異常など、食品とは異なる品質リスクがあり、これらの項目を製造段階で検査して安全・安心を保証することが医薬品メーカーの重要課題になっています。

アンリツグループの強み・戦略

PQA事業は、半世紀以上にわたり生産プロセスの中で「はかる」ことに取り組んできました。形や大きさ、性状のばらつきがある食品を瞬時にはかるには、工業製品とは異なる技術とノウハウが必要であり、その蓄積が強みとなっています。包装や食品内部を透過できるX線検査機は、今日では食品品質検査の中核となっています。アンリツはX線検査機をはじめとする品質検査機器を主要国に提供しており、日本市場においてはトップクラスのシェアを誇ります。

事例1 異物混入による加工食品の廃棄ロス抑制に貢献

食品を加工する際、原材料に異物が混入したまま加工してしまうと最終検査工程で不良品として排除され、廃棄ロスが生じます。XR75HR デュアルエナジーセンサ搭載X線検査機は、新方式の高精細センサと新設計の画像処理を搭載した最新鋭の検査機です。このX線検査機は、これまで検査が難しかった、厚みがあり凹凸が多い塊内に残る骨片などの異物をより高精度に検出することができます。これにより原材料受入段階での異物の除去精度が大幅に高まり、不良品の発生と廃棄ロスの抑制に貢献しています。



X線検査機 XR75HR



事例2 高感度な品質検査で医薬品の安全・安心に貢献

錠剤やカプセル剤の製造工程では、製造時の微小金属混入を検査するために金属検出機が使用されています。アンリツは食品市場で培った高感度センシング技術を基礎に、医薬品製造工程の特性に適した専用の検出ヘッドを開発し、錠剤・カプセル剤用金属検出機に採用しました。これにより振動や静電気の影響が心配な環境でも、安定かつ高感度な異物混入検査を実現しています。医薬品のデータ改ざん防止などのために米国食品医薬品局が定めた「FDA 21 CFR Part 11」にも対応し、安全・安心な医薬品の供給に貢献しています。

VOICE



技術者の 知見を生かした X線検査特注機を提案

インフィピスカンパニー
開発本部エンジニアリング部
片岡 大熙

私はメカニカルエンジニアとして、お客さまの工場設備に合わせてX線検査機をカスタマイズする特注機を担当しています。特注機は標準機を改造して作るので、技術者の立場から品質・コスト・納期のバランスを考えた提案を心がけています。その結果、お客さまが満足される良いものができて、感謝の言葉を頂いたときの達成感はひとしおです。今後も、事業の成長と社会課題解決に貢献できる仕事をしていきたいと思っています。

エネルギー制御と情報通信の技術で 安全・安心に住み続けられる 豊かな社会の実現を目指す

執行役員
環境計測カンパニープレジデント
株式会社高砂製作所 代表取締役社長
安城 真哉



事業概要と目指す社会

環境計測事業はモビリティの電動化を促進する高性能な電源装置と、ネットワークインフラの強化や産業のDX化を支援する信頼性の高い情報通信ソリューションを提供しています。これらの事業を通じて、誰もが安全・安心に暮らせる社会の実現を目指しています。

社会課題・顧客課題

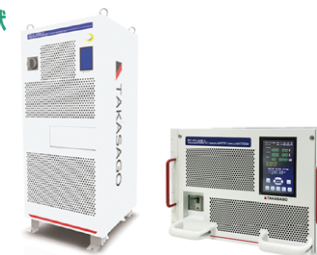
地球温暖化による自然災害が私たちの生活を脅かす中、温室効果ガス排出抑制や防災・減災といった多面的な対策が社会全体の課題となっています。具体的には代替エネルギーへの移行を中心とした脱炭素社会の構築や、社会インフラの防災対策をはじめとするレジリエントなまちづくりが急がれています。また、深刻化する人手不足に対応するため、ITを活用した作業の効率化や省人化も重要な課題となっています。

アンリツグループの強み・戦略

市場の拡大に伴いEVの車種は増加しており、試験仕様も多様化しています。2022年にアンリツグループに加わった高砂製作所は、さまざまな試験仕様に対応できる電源装置を開発・提供しており、その柔軟性と適用性が高い評価を得ています。この電源装置はエネルギー消費を抑える電力回生機能を備えており、試験環境の省エネにも貢献しています。社会インフラ向けのソリューションでは、当社グループが長年培ってきた通信制御や映像技術を活用した遠隔監視システムにより、監視の省人化や生産ロス抑制による省エネ化を実現しています。DX化が進む産業分野では、当社グループの持つ世界トップクラスの5G測定・分析ソリューションで、製造現場の安定稼働を支えています。

事例1 普及拡大に向けて加速するEV・PHVの開発に貢献

世界中で多種多様なEV・PHVの開発が加速しています。その主要部品であるバッテリー、インバータ、モータの性能や信頼性評価は多様化しており、評価期間の短縮は普及に向けた課題になっています。高砂製作所のハイブリッド電源は、これら主要部品の複雑な挙動を再現可能なため、実車がなくてもテストを行える環境が構築でき、評価期間を大幅に短縮できます。この電源機器は、発生した電力を再利用する電力回生技術によって電力使用量を抑制できることから、発電に伴うCO₂発生削減にも貢献しています。



ハイブリッド電源 RZ-X2シリーズ

事例2 河川防災における社会インフラ監視の省人化に貢献

近年、日本で頻発している風水害への対策のため、国土強靱化政策の下、水門などの河川管理施設が増加しています。一方で施設監視・管理の担い手が不足しており、対応の効率化が求められています。アンリツの分散型遠方監視装置は、エッジコンピューティング技術により水門をはじめとした施設をIoT化し、リモートで稼働状態を監視できるようにしています。電源や通信回線が無い現場向けには、ソーラーパネルによる電力確保やLPWA (Low Power Wide Area) による低消費電力通信などを、パートナーと連携して提案しています。



遠隔監視装置盤とソーラーパネル

VOICE



CO₂排出量削減に パートナー製品を 通じて貢献

環境計測カンパニー
営業本部 営業推進部
陳 燕丹

私はパートナー企業さまの計測製品の販売に携わっています。その中でも、目には見えないエア漏れや電気設備の部分放電を可視化して映像で確認できる超音波カメラは、「問題発生箇所を簡単に見つけられる」とお客さまに好評です。この製品を通じ、さまざまな業界のお客さまと関わりを持てることや、工場設備のエネルギーロスとCO₂排出量の削減に貢献できていることを嬉しく思っています。

多様な産業製品のコアとなるデバイスを供給し 健康的で便利な暮らしと安全・安心で快適な 社会の実現に貢献

常務執行役員
センシング&デバイスカンパニープレジデント
橋本 康伸



事業概要と目指す社会

センシング&デバイス事業は、化合物半導体をコアとするデバイス技術によって光通信網の大容量・長距離化の分野で事業展開しており、その技術を生かして光センシング市場を開拓し、事業を拡大しています。長年培ったセンシング&デバイスの技術力と製造力で、安全・安心で快適な社会の実現に貢献しています。

社会課題・顧客課題

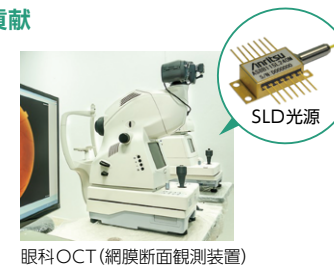
高齢化が進むにつれて眼科疾患の患者数は増加しており、早期発見を可能にする高精度な検査機器と、患者への負担が少ない検査環境のニーズが高まっています。近年はスマートフォンの長時間使用による若年層の眼軸長近視も増加し、早期予防のための診断環境の普及拡大が求められています。地震の多い日本では、安全・安心な社会インフラ整備のため、老朽化した建造物の安全性確認と効率的なメンテナンスが大きな課題になっています。その解決策の一つとして、構造物ヘルスマonitoring分野へのファイバーセンシング技術の導入が進んでいます。

アンリツグループの強み・戦略

センシング&デバイス事業は、通信分野で培った先端的なデバイス技術と自社製造ラインを保有しており、センシング領域でも新たな価値を生み出すノウハウを蓄積しています。眼科診断においては、各種検査ごとの最適な光源を提供することで病気の早期発見と治療、患者の負担軽減に寄与しています。多様なニーズに応じて光源の高出力化や小型化を実現し、検査精度向上や検査機の普及にも貢献しています。今注目されている構造物ヘルスマonitoringにおいては、測定に必要な距離や分解能により選択されるファイバーセンシング各方式への最適な光デバイスを供給しています。

事例1 患者に負担をかけない目の検査に光デバイスが貢献

近年、高齢化に伴う眼病増加やスマートフォンの長時間使用による若年層の近視増加など、これまで以上に眼科診断の重要性が高まっています。センシング&デバイス事業は、目の検査を行う眼科OCTや眼軸長測定器用の光デバイスとして、SLDや波長掃引光源を提供しています。これらの機器によって眼球に触れることなく患者に負担をかけない検査が可能となり、加齢黄斑変性症や緑内障の早期発見、白内障の治療、近視の予防に貢献しています。



眼科OCT (網膜断面観測装置)

事例2 人の目の代わりとなる小型LiDARの実現に貢献

LiDAR (Light Detection And Ranging) は、レーザ光を照射して対象物までの距離や対象物の形などを計測する技術です。この技術によって夜間や霧の時でも対象物を確認することができるため、既に先進運転支援システム (ADAS) や自律走行搬送ロボットに人の目の代わりとして使われています。センシング&デバイス事業は、このLiDARの核となるレーザ (Gain Chip) を開発製造しています。このレーザは小型で小さな電力でも強いパワーを出力できるため、長距離かつ広範囲な測定ができる小型LiDARの実現に欠かせないものとなっています。



外部共振器レーザ用 Gain Chip

VOICE



あくなき探求心で 質の高いものづくりを 追求

センシング&デバイスカンパニー
開発本部 第1開発部
武田 愛弓

私はLiDARや波長可変光源に活用されているGain Chipの仕様を、お客さまのご要望に合わせてカスタマイズする業務に携わっています。仕事で直面する難しい課題は、いつも新鮮な驚きと感動を与えてくれます。お客さまの研究開発が順調に進み、私たちのGain Chipがさまざまな分野で社会実装されるよう、探求心を忘れずに研鑽を重ね、高品質な製品を提供し続けたいと思います。

サステナビリティ目標とその進捗

アンリツグループは各事業部門、コーポレート部門、グループ会社が3カ年ごとの中期経営計画 (GLP：Anritsu Global Long Plan) を策定しています。2021年度から2023年度を対象とした中期経営計画「GLP2023」では、ESG分野におけるサステナビリティ目標を設定しており、社会の持続可能性を阻害するさまざまな課題の解決に向けて取り組みました。

	KPI：GLP2023のサステナビリティ目標(2021年～2023年度までの目標)		2023年度実績
Environment 環境	温室効果ガス(Scope1+2)※1	2015年度比 23%削減	36.6%削減
	温室効果ガス(Scope3)※1	2018年度比 13%削減	39.3%削減
	自家発電比率(PGRE 30)※2	13%以上(2018年度電力消費量を基準)	10.4% 2024年3月末時点
Social 社会	女性の活躍推進	女性管理職比率15%以上(2021年3月末時点 10.8%) 連結	11.2% 2024年3月末時点
	高齢者活躍推進	70歳までの雇用および新処遇制度確立(2020年度実績 65歳までの雇用延長制度あり)	70歳までの雇用および新処遇制度運用継続
	障がい者雇用促進	職域開発による法定雇用率2.3%達成(2021年3月末時点 2.05%)	2.66% 2024年3月末時点 ※ 特例子会社ハピスマとの合算
	サプライチェーン・デューデリジェンスの強化	3年累積10社以上(2021年3月末時点 0社)	8社実施(3年累積で20社)
	CSR調達に係るサプライヤーへの情報発信と教育	情報発信年2回以上、教育年1回以上(2021年3月末時点 情報発信2回、教育1回)	情報発信3回、教育2回
Governance ガバナンス	取締役会の多様性の推進	社外取締役比率50%以上(2021年3月末時点 44%(9人中4人))	50%(10人中5人)
	海外子会社の内部統制構築	全海外子会社が統制自己評価(CSA)の基準を満たす	全ての項目で基準を満たす会社：90%(項目数：157)

中期経営計画「GLP2026」のサステナビリティ目標

2024年度から始まる新たな3カ年のGLP2026において、2026年度までに達成を目指す目標とKPIは次の通りです。

	目標	KPI
Environment 環境	温室効果ガスの削減	温室効果ガス(Scope1+2)※1：2021年度比 23%以上削減 温室効果ガス(Scope3)※1：2019年度比 17.5%以上削減
	自家発電比率の向上(PGRE 30)※2	自家発電比率：14%以上
	資源循環(サーキュラーエコノミー)の実現	資源循環に対応した製品をリリースする
		プラスチックごみを100%マテリアルリサイクル
Social 社会	ダイバーシティ経営の推進	女性の活躍推進：女性管理職比率15%以上 連結 障がい者雇用推進：職域開発による法定雇用率2.7%達成
	働きがいのある労働環境の実現	エンゲージメント調査の働きがいポジティブ回答率：80%以上
	グローバルなCSR調達の推進 (環境、労働環境、人権などにおける社会的責任)	サプライチェーン・デューデリジェンスの強化：年10社以上
		CSR調達に係るサプライヤーへの情報発信：情報発信 年3回、教育 年2回以上
Governance ガバナンス	グローバルなガバナンス向上	取締役の多様性の推進：女性取締役比率20%以上
		取締役会における経営課題の集中討議：年6回

※1 Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)、Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出、Scope3：Scope1・Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)。アンリツではScope3のKPIにCategory1および11を採用

※2 PGRE 30は2018年度のアンリツグループの電力使用量を基準に、再エネの一つである太陽光自家発電比率を、2018年度の0.8%から2030年頃を目途に30%程度にまで高めていくアンリツ独自の目標

目次・編集方針

Introduction

サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

社会課題解決と事業成長

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

ESGインデックスへの組み入れ状況、外部評価

ステークホルダーとの対話・共創

アンリツグループは、ステークホルダーのみなさまと協働し、共有価値の創造に貢献することを目指しています。

そのため、ステークホルダーとのコミュニケーションを重視しており、適切かつタイムリーな情報開示に努めています。パートナーシップの構築を通じて、さまざまな社会課題の解決に向けた活動を行っています。

ステークホルダー	テーマ・目的	コミュニケーション方法	参照
株主・投資家	- 公平かつ適時・適切な情報開示 - 企業の信頼性の向上 - アンリツへの理解促進	- 決算説明会 - IR個別面談 - 統合レポート - 株主総会 - 証券会社主催のカンファレンスへの参加 - ウェブサイト	WEBIR最新資料
お客さま	- お客さまのニーズに応える独創的で高いレベルの製品とサービスの提供 - アンリツおよびアンリツ製品のブランド価値の向上と、アンリツに対する理解と信頼の向上 - 公正な営業活動の推進	- 営業活動 - お客さま相談窓口 - 宣伝、広告 - ウェブサイト	WEBアンリツ株式会社・アンリツグループ
サプライヤー	- 相互信頼に基づいたパートナーシップの構築 - サプライチェーン全体でのCSR推進 - 公正な調達活動の推進	- 懇親会、情報交換会 - 製品展示会 - コラボレーションルームの設置 - CSR調達調査、グリーン調達、現地調査 - パートナーQU活動	サプライチェーンマネジメント
従業員	- 従業員一人ひとりの個性、多様性、人格を尊重し、能力を十分に発揮できる働き方の実現 - 健康と安全に配慮した生き生きと働ける職場環境の整備	- 従業員エンゲージメント調査 - 上司と部下による面談 - 企業倫理調査 - ヘルプライン（通報・相談窓口）	WEB人的資本 多様性の推進 人材育成 働きやすい環境づくり 健康経営 安全衛生
国連・国際機関、政府・自治体	- 国際社会への協調と発展への貢献 - 国際ルールや法令の遵守	- 国際的なイニシアチブへの参加 - 官民連携プロジェクト - 政策提言	WEB国連グローバル・コンパクトへの賛同 業界団体・イニシアチブへの参加や賛同 労働基準に関するイニシアチブへの参加
地球環境	- 環境問題への積極的な取り組み - 人と地球が共存できる豊かな社会づくりへの貢献 - 情報開示による環境ブランド向上	- 事業所における環境負荷削減活動の推進 - 社内外のステークホルダーとの環境コミュニケーション促進 - 地域でのボランティア活動	TCFDへの対応
地域社会、NGO・NPO	地域発展への協調と貢献	- 社会貢献活動 - 地域でのボランティア活動 - 災害人道支援	WEB社会貢献活動 パラリンアートへの協賛 労働基準に関するイニシアチブへの参加
その他	ESGに関する評価機関とのコミュニケーション	- 各種ESG調査アンケート - CDPへの回答 - 外部機関からの監査・評価（RBA、EcoVadis、SMETA）	WEBESGインデックスへの組み入れ状況、外部評価

目次・編集方針

Introduction

サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

社会課題解決と事業成長

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

ESGインデックスへの組み入れ状況、外部評価

ESG インデックスへの組み入れ状況、外部評価

アンリツグループのESG活動が評価され、国内外のESGインデックスやSRI投資(社会的責任投資)の株価指数およびファンドの構成銘柄となっています。

GPIF 採用 ESG 指数に選定

GPIF (Government Pension Investment Fund、年金積立金管理運用独立行政法人) が採用した次の5つのESG指数に選定されています。

 FTSE Blossom Japan Sector Relative Index	 FTSE Blossom Japan	 Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index TOP CONSTITUENT 2023
※2 2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数	 S&P/JPX カーボン エフィエント 指数	

その他の国内外指数

 2024 Sompo Sustainability Index	 Member 2023/2024 Platinum Career Index
---	---

※1 Morningstar, Inc及び/またはその関連会社(単体/グループに関らず「Morningstar」)は、アンリツ株式会社が、指定されたランキング年において、職場でのジェンダー・ダイバーシティに関して、Morningstar 日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト(除くREIT)指数(「インデックス」)を構成する銘柄の上位5分の1にランクされた」という事実を反映するために、アンリツ株式会社がMorningstar日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト(除くREIT)・ロゴ(「ロゴ」)を使用することを承認しました。Morningstarは情報提供のみを目的としてアンリツ株式会社によるロゴの使用を承認しております。アンリツ株式会社によるロゴの使用はMorningstarがアンリツ株式会社を推奨するものではなく、また、アンリツ株式会社に関連する有価証券の購入、売却、引受けを推奨、提案、勧誘するものでもありません。当インデックスは日本の職場のジェンダー・ダイバーシティを反映するようにデザインされておりますが、Morningstarは、インデックスまたはインデックスに含まれるデータの正確性、完全性、または適時性を保証しません。Morningstarはインデックス、またはロゴに関して明示的にも暗黙的にも保証を行わず、インデックス、インデックスに含まれるデータまたはロゴに関する商品性および特定の目的または使用への適合性の保証を明示的に否認します。前述のいずれにも制限することなく、いかなる場合においても、Morningstarまたはその第三者のコンテンツプロバイダーは、いずれかの当事者によるインデックスまたはロゴの使用または信頼に起因する(直接的・間接的に関わらず)損害について、Morningstarが当該損害の可能性について認識していたとしても、いかなる責任も負わないものとします。Morningstarの名前、インデックス名、およびロゴは、Morningstar, Incの商標またはサービスマークです。過去のパフォーマンスは、将来の結果を保証するものではありません。

※2 アンリツ株式会社のMSCIインデックスへの組入れ、およびここでのMSCIロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連会社によるアンリツ株式会社のスポンサーシップ、推奨、または宣伝を意図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCIならびにMSCIインデックスの名称およびロゴはMSCIまたはその関連会社の商標またはサービスマークです。

ESGに関する外部評価

 CDP DISCLOSURE INSIGHT ACTION	 2024 ESG FINANCE AWARDS JAPAN SPECIAL
CDPの気候変動に関するスコアで「A-：リーダーシップレベル」を獲得(2023年度)	環境省主催の「第5回ESGファイナンス・アワード・ジャパン」の環境サステナブル企業部門で「特別賞」を受賞(2024年2月)
 MSCI ESG RATINGS AA	 Rated SUSTAINALYTICS
MSCI ESGレーティングでAAの評価を取得(2024年4月)※3	Risk Ratings Rating disclosureのESGリスク評価カテゴリーで Negligible Risk を獲得(2023年2月)※4

※3 THE USE BY ANRITSU CORPORATION OF ANY MSCI ESG RESEARCH LLC OR ITS AFFILIATES ("MSCI") DATA, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT, RECOMMENDATION, OR PROMOTION OF [ENTITY] BY MSCI. MSCI SERVICES AND DATA ARE THE PROPERTY OF MSCI OR ITS INFORMATION PROVIDERS, AND ARE PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY. MSCI NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI.

※4 Copyright ©2023 Morningstar Sustainalytics. All rights reserved. This publication contains information developed by Sustainalytics(www.sustainalytics.com). Such information and data were proprietary of Sustainalytics and/or its third party suppliers (Third Party Data) and are provided for informational purposes only. They do not constitute an endorsement of any product or project, nor an investment advice and are not warranted to be complete, timely, accurate or suitable for a particular purpose. Their use is subject to conditions available at <https://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers>.

目次・編集方針

Introduction

サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

社会課題解決と事業成長

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

ESGインデックスへの組み入れ状況、外部評価



アンリツ株式会社

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名 5-1-1

TEL: 046-223-1111 <https://www.anritsu.com>